



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2008年12月1日 第56号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

# 下関市立大学広報

## 「ふく資料室」開設

平成20年10月9日(木)、本学学術センター3階にふく資料室が開設され、同日午前11時に学術センター3階会議室において、松村久下関ふく連盟会長をはじめ多数の来賓の臨席のもとオープニング式典が開催された。

本学の位置する下関市は、フクの好漁場である瀬戸内海、東シナ海、日本海のいずれにも近い交通の要衝であり、天然トラフクの8割近くが集荷される南風泊(はえどまり)市場を擁し、日本一のフクの街といっても過言ではない。

しかしながら、鯨と比べるとフクに関する文献・資料は驚くほど少ない上に、フグ毒などの自然科学の文献・資料が中心であり、社会科学からのアプローチはこれまでほとんどなされていなかった。

こうした状況の中で、フクに関する文献・資料を収集し、社会科学関連の研究活動を行なうことは、地域に根ざす本学の責務であるとの認識に立ち、このたび全国の大学に先駆け、本学にふく資料室を設置することとした。

本学のふく資料室は、下関ふく連盟からの寄贈品を中心に、フク標本、パネル、文献・資料等約300点を収蔵し、その一部をふく資料室に展示している。

また、ふく資料室開設と同時に、国内外の研究者やフク産業関係者で構成するフク産業研究会を発足させた。

フク産業研究会は、今後月1回のペースで研究会を開催し、研究成果については、年1回シンポジウムを開催して公表していく。

なお、オープニング式典に先立って、下関市立大学同窓会より、ふく資料室に寄付金贈呈があった。



## オープンキャンパス 2008 開催



7月27日(日)及び8月3日(日)の2日間、恒例のオープンキャンパスが開催された。今回、初めての試みとして、開催時間帯を変えて2日間開催するとともに、高校生の視点に立ったホスピタリティを実施するため、企画段階から生協学生委員会の学生も参画した。

来場者は、7月27日190名、8月3日236名の計426名(昨年度は370名)で、市内の高校生の他、茨城県から鹿児島県までの19府県からの参加があった。

2日間とも猛暑の中での開催であったが、参加者には、冷たく冷えた関露水(松藤理事長が水道局長時代に考案)と生協学生委員会の親切な対応が好評であった。



## 初の国際インターンシップを実施



本学では2008年9月に初めての国際インターンシップを中国の青島市で実施した。この事業は、「東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育と研究」を理念の1つとする本学が、国際交流面の一層の強化を図り、更に学生諸君が海外の現場に身を置き、激変する東アジアの経済の動向について体感・実感することによって、問題意識を鍛え、勉学意欲が高まることを目的とするものである。実施にあたっては青島日本人会のご協力を得て、日本を代表する日系企業や地元で人気の高い旅行会社など7社にインターン生を受け入れていただいた。参加学生8名はそれぞれの企業で、講義、視察、現場体験など様々な体験を通して、国際企業の業務について理解を深めることができた。彼ら一人一人が、今回のインターンシップで学んだことを今後に生かし、また、日本と中国の架け橋となって活躍することが期待される。

## 国際インターンシップに参加して

経済学科4年 大久保智広

国際インターンシップに参加するにあたって、私が設定した目標は3つある。1つ目は、今年1月におきた中国天津食品の毒餃子事件をきっかけに、日中の食料の流れがどう変化し、どういふ影響を企業に与えたのか、さらに中国産食品の安全性の実態はどのようなものなのか、という点を消費者の目線から確かめてくるということである。

2つ目は、これから始まる就職活動で、どういった基準で企業を選ぶか、海外で働くということは何様な問題点やメリットがあるのか、といった就職活動を前提とした学生の目線で、企業や中国経済を見てくるということである。

そして最後に、たった1年だけの中国留学で得ることが出来る語学力で、中国でビジネスが出来るのか?という点を確かめてくることである。

1つ目の消費者の目で見えた中国の食品安全問題は、まだまだ課題が山積みだとは思ったものの、日系企業が監督指導している現地工場での衛生管理の厳しさと衛生管理費へのコスト割合を見ても、日本国内と同等、もしくはそれ以上の安全性があるものだと私は確信した。消費者として毎日口にする食品は、健康への影響も出やすく、とても気なる存在である。しかし日本人として、中国に輸入を頼らざるを得ない現状、そして中国のお陰で今の生活があるということ、私は日本人たちに分かってもらいたくなった。

2つ目の学生の目で見えた中国企業、経済であるが、オリンピックも終わり中国経済はややスローな経済成長に落ち着いてきている。中国企業は外資企業からノウハウを吸収し、いまや独自に色々な業務展開を世界中に伸ばしつつある。海外で働くということは、その国の文化を尊重し、固定概念にとらわれず、臨機応変に柔軟に対応するスキルがとても重要だと思った。しかし、その国のビジネススタイルに染まってしまうのではなく、日本人だからこそ出来るサービスやビジネスを忘れる事無く仕事が出来れば、私は海外での就業は実り多いものになるだろうと思った。文化や習慣の違いで悩むことがあっても、ポジティブに楽しむことが出来たら、その悩みや問題点は好転するのではないかな?と思った。

3つ目の語学力についてであるが、1年間の留学で身に付けた語学力で十分にやっていけると思った。インターンシップは、9割がたが中国語でのやり取りであったが、専門用語やビジネス用語を除けば、ほぼ理解できたし、コミュニケーションも違和感なくとれたと思っている。それ故に、来年度以降、国際インターンシップに参加する日本人の学生が増えることを祈っている。

## 鹿児島大学大学院との研究会開催



本年3月13日に鹿児島大学大学院(人文社会科学部研究科)と締結した学術交流協定に基づき、11月14日(金)、鹿児島大学法文学部棟において、ブランド化戦略に関する研究交流会が開催された。

本学からは、濱田大学院研究科長他5名(教員4名、院生1名)、鹿児島大学からは萩野教授他3名(教員2名、院生1名)が参加し、下関フクブランド並びに鹿児島焼酎ブランドの現状と課題をテーマに活発な議論が交わされた。

また、研究交流会終了後、平成21年度より開講を予定している大学院遠隔講義について、開講科目や受講手続きについての協議を行った。



## 平成21(2009)年度入試の概要

## ★本年度の入試について

- ・公立大学中期日程試験の試験場に高松会場と鹿児島会場を追加しました。
- ・個性的な学生に門戸を開くため、大学入試センター試験では得意科目の得点比重を高めるシステムを採用しています(国際商学科は、国際化に対応した人材の育成をめざしているため、前期日程入試を受ける場合、センター試験に外国語を課しています)。
- ・前期日程入試は、論理性に富み、個性的で独創的な考えをもった学生を受け入れるため、個別学力試験は小論文だけを課しています。
- ・中期日程入試では、英語の基礎学力をもった学生を受け入れるため、個別学力試験で英語を課しています。

## ★一般選抜 前期日程

出願期間：平成21年1月26日(月)～2月4日(水)消印有効 試験日：2月25日(水) 試験会場：下関、大阪

## ★一般選抜 公立大学中期日程

出願期間：平成21年1月26日(月)～2月4日(水)消印有効 試験日：3月8日(日) 試験会場：下関、大阪、高松、福岡、鹿児島

## 前期日程入試の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・「外国語」・「国語」・「地理歴史、公民、数学①、数学②、理科①、理科②、理科③」(得点の高いものから2科目採用)から2つ採用	小論文	800点
	<b>【科目の採用の仕方と配点】</b> 1. 最も得点の高いものを300点満点に換算し採用する。 2. 次に得点の高いものを200点満点のまま採用する。 300点+200点	300点	
国際商学科	・「外国語」(必須) ・「国語」・「地理歴史、公民、数学①、数学②、理科①、理科②、理科③」(得点の高いものから2科目採用)から1つ採用	小論文	800点
	<b>【科目の採用の仕方と配点】</b> 1. 外国語を300点満点に換算し採用する。 2. 外国語以外の最も得点の高いものを200点満点のまま採用する。 300点(外国語)+200点	300点	

## 公立大学中期日程入試の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・「外国語」・「国語」・「地理歴史+公民」・「数学①+数学②」・「理科①、理科②、理科③」(得点の高いものから2科目採用)から3教科採用	外国語 (英語Ⅰ・英語Ⅱ・ リーディング・ライティング)	800点
	<b>【科目の採用の仕方と配点】</b> ・得点の高い順に3教科を採用する。 200点×3	200点	
国際商学科	・「外国語」・「国語」・「地理歴史+公民」・「数学①+数学②」・「理科①、理科②、理科③」(得点の高いものから2科目採用)から3教科採用 ※ただし、この3教科の中に外国語か数学①+数学②のどちらかを含むこと。	外国語 (英語Ⅰ・英語Ⅱ・ リーディング・ライティング)	800点
	<b>【科目の採用の仕方と配点】</b> 1. 外国語か数学①+数学②のうち得点の高い教科を採用する。 2. 1で採用した教科以外で得点の高い順に2教科を採用する。 200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程ともに、外国語で英語を選択した場合は、リスニングも含む。

※お問い合わせは、学務グループ入試班まで (TEL083-252-0289)

**卓球部および少林寺拳法部が全国大会出場**



10月9～12日に東京武道館で行われた「第75回全日本学生卓球選手権大会(女子シングルス)」に、卓球部1年の道下知香さんが出場した。

また、少林寺拳法部は6月に開催された「第36回山口県少林寺拳法大会兼2008年少林寺拳法全国大会予選」において優秀な成績を収め、11月2日に開催された「2008年少林寺拳法全国大会」の3部門「組演武(一般男子初段の部)(一般男女級拳士の部)」「団体演武(一般の部)」に出場した。少林寺拳法部の全国大会出場は3年連続であり、この度は下関市役所を表敬訪問し、市長へ全国大会の出場報告を行った。両部とも、今回は善戦及ばず入賞できなかったが、今後も活躍が期待される。



**2008(平成20)年度(春季)体育会サークル成績**

サークル名	大会名	種目	成績	
卓球部	第59回中国学生卓球選手権秋季大会	男子団体 Ⅲ部	3位	
	第59回中国学生卓球選手権秋季大会	女子シングルス	ベスト8	道下 知香
	第75回全日本学生卓球選手権大会	女子シングルス	1回戦敗退	道下 知香
バドミントン部	山口県春季学生バドミントン大会	男子団体	準優勝	
	中四国バドミントントーナメント	女子シングルス	ベスト4	高橋 慶子
男子バスケットボール部	山口県リーグ		5位	
	春季中国大会		8位	
男子バレーボール部	第67回中国大学バレーボールリーグ戦春季大会	3部リーグ	9位	
	山口県大学高専バレーボール戦春季大会	Cリーグ	優勝	
女子バレーボール部	春季山口県大学高専学生バレーボール選手権大会	Bリーグ	優勝	
硬式庭球部	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	男子シングルス	優勝	入江 隼斗
	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	男子ダブルス	優勝	入江 隼斗・折山 まさお
	北九州・下関地区大学体育大会(秋季)	男子団体戦	優勝	
	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	女子シングルス	優勝	岩村 奈央
	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	女子シングルス	ベスト4	矢野 里沙
	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	女子ダブルス	優勝	岩村 奈央・矢野 里沙
	北九州・下関地区大学体育大会(春季)	女子ダブルス	準優勝	中野 響子・萩野 美羽
	中国四国学生テニス選手権大会(夏季)本戦	女子シングルス	2回戦敗退	岩村 奈央
ソフトテニス部	下関市春季ソフトテニス選手権大会	男子ダブルス	ベスト4	下野 裕介・岩崎 樹
準硬式野球部	中国地区春季リーグ戦		2位	
	中国地区秋季リーグ戦		4位	
軟式野球部	西日本学生軟式野球連盟春季(I)部リーグ戦		8位	
少林寺拳法部	山口県大会	一般男子初段の部	最優秀賞	藤瀬 天魚・松岡 賢弘
	山口県大会	一般男女段外の部	最優秀賞	大西 智久・清水 愛
	山口県大会	一般男女段外の部	優秀賞	杉本 彰人・谷口 春菜
	山口県大会	一般団体演舞の部	優良賞	下関市立大学 A
	中四国学生大会	女子初段の部	優良賞	駒寿 公子・長宗 有紀

## 国際学会レポート



教授 櫻木晋一

9月20日から23日まで、イタリア半島東岸最南端のレッチェ市サレント大学で第12回E A J S（ヨーロッパ日本研究協会）国際会議が開催された。この学会はドイツのフランクフルト大学に事務局を置き、日本に関する文学・言語学・教育学・社会学・経済学などさまざまな分野の研究をおこなうヨーロッパ人たちが集う学会で、最近ではアメリカ人の会員も増えている。日本を学問対象とする研究会なので日本人も多く所属しており、今年の大会参加者の2割ほどは日本人であった。大会は3年に一度開催されており、私は経済史部門で江戸時代に関する「貨幣と信用」と題したパネルを組み立てた。司会は、市大での講演経験をもつイギリス・ケンブリッジ大学のコーニッキー教授にお願いし、私は「出土銭貨が語る貨幣流通とその使用」、流通科学大学の加藤慶一郎教授が「旅とお金」、ドイツ・チュービンゲン大学のベッチィーナ博士が「貨幣信用に関する当時の学問的議論」と題して、それぞれが専門としているテーマで報告をおこなった。

私は英語の完全原稿を準備して、パワーポイントを使用しながら20分間のプレゼンテーションをおこなったが、英語を日常的に使用していないこともあり、練習を入念にしていたとはいえ、アクセントや表現方法に苦心した。報告の成否はともかくとして、聴衆からの質問は専門性が高く、外国人学者の日本研究レベルは以前に比べると格段に高くなっている。とはいえ、一般人レベルでの日本史理解が進んでいるわけではないので、まだまだわれわれ日本人が専門家の立場で積極的に情報発信をおこなっていく必要がある。今後も機会があれば海外での発表をおこない、下関市立大学の名前を世界で広めるとともに、日本における研究レベルの高さを示していかなければならないと思いつつ、帰国の途についた。

## 現代GP環境グループ合宿を終えて

森(邦)ゼミ 堀尾あすさ、安田真智子、藤本紗代、小川彩華、中川江美

横山ゼミ 島田哲也、町田達哉、金本治

9月29・30日に、森(邦)・横山ゼミが主体となった参加者総勢77名の現代GP環境グループ合宿が山口県徳地青少年自然の家で行われた。この合宿では、「両ゼミの今まで調査してきたことを発表すると共に、それについての意見交換・討論会を行い、環境問題についてより意識を高める。そして、レクリエーションなどを通じて大学内での交友の場を広げること」を目的とし、両ゼミの研究発表会、ワークショップ、ネイチャー

ゲーム、ソフトバレー等のイベントを企画した。

研究発表会では、両ゼミが春学期に研究・調査してきたことを発表し、各班に分かれワークショップを行った。これを通して、班員同士の交流を深めることができ、今後の研究・発表につながる貴重な意見などを聞くことができた。

ネイチャーゲームでは、五感による自然体験を得ることで、自然や環境への理解を深め、参加者全員で自然の美しさや感動を分かち合うことができた。また、ソフトバレーボール大会では、共に爽やかな汗を流すことができ、先生、学年、男女の垣根を越えた交流は貴重な思い出となった。

私達合宿班は、この2日間のために早くから準備に取り掛かり、企画・下見など、これまでは経験したことのない作業を行ってきた。大変な面もあったが、周りの人たちや先生方の協力もあり、合宿終了後にはそれが全て大きな喜び、達成感となった。そして今後、後輩達にもこのような合宿が受け継がれていくことを期待している。

## 川でつなぐ日韓交流 in 山口

大学院経済システム専攻 野村史義

今回、私は「川でつなぐ日韓交流 in 山口」にスタッフとして参加した。この会議は、国内ないし韓国における河川団体のシンポジウムであり、今回担当である山口県が担当者中心に計4回の実行委員会を経て、10月25・26日に長門市依山温泉において行なわれた。市大からは6名の学生が参加し、大会当日はそれぞれが進行、記録、受付等の仕事を分担し作業にあたった。また、二日目には山口県内の河川事業の取り組みや県内観光を含めた観光コースを予定しており、事前の実行委員会で、そのコース計画にも携わった。

このような大会に参加できた事で、多くの河川団体担当者と関係を持つことができ、その中で大会開催までの準備の方法、計画作成の大変さを痛感した。また、今回初めて韓国からの参加もあり、訪日団との交流も実現した。今回の大会を通じて、国内だけでなく世界においても河川重要性の認識の高さを感じ、河川に対する保護策を実践していることを体験できた。今後は私たちの現代GPのテーマである、川とまちづくりと絡めて今回の大会で得たことが活かせるよう努力したい。



## ■イギリス研修記



国際商学科3年 山口麻衣

初めての海外、初めての留学、初めてのホームステイ。しっかりと英語で会話ができるか、ホストファミリーとはうまく付き合えるか、少しの不安と期待でいっぱいであったが、実際、問題になったのは自分の語学力だけであった。ホストファミリーとはじめの2、3日は、会話をうまく続けることができなかつたが、慣れてくると、普通に会話ができるようになり、とても温かい環境の中で生活できた。

イギリスではウインブルドンに滞在していた。平日の午前中は語学学校で勉強し、午後は学校主催のアクティビティに参加したり自由に過ごしたりしていた。自由な時間にはよくロンドンに行っていた。イギリスで心に残ったのは美術館だ。有名な画家の作品が無料で見ることができるのは日本とは違い驚いた。

1ヶ月間イギリスにいて、語学力が身についたかと聞かれたらはっきりイエスとは言えないが、とてもいい人たちと出会えることができたので行って本当に良かったと思う。

## ■中国研修記



国際商学科1年 宮下紗弥

私は夏休みに約3週間、中国の青島大学に行ってきた。その間、午前中は中国語の授業を受け、午後からは日本語学科の学生と一緒に買い物に行ったり中国料理を食べに行ったりした。中国語の授業は中国人の先生によるもので、全て中国語での授業であった。分かる単語が少なくて最初のころは授業についていけなかった。また、授業以外の普段の生活においても、中国語が分からず買い物やご飯の注文などにとっても苦労した。しかし、仲良くなった中国人の友達に中国語を教えてもらったり、みんなで授業の予習や復習をした。すると、だんだん少しずつだが、中国語が聞き取れ、理解できるようになった。

私はこの外国研修を通して中国語だけでなく、自分自身成長できたと思う。行く前はたった3週間で何が学べるのか不安であったが、行ってみると3週間でも中国語はもちろんだがそれ以外のことでも多くの事が学べた。中国で友達もでき、本当に充実した3週間であった。

## ■韓国研修紀



国際商学科1年 吉川敦美

私は、大学に入学して朝鮮語を習いはじめた。短期の語学研修に行くことになったとき、不安と期待でいっぱいであったが、実際、韓国に行ってみると何もかもが新鮮で発見の連続であった。私は毎日、辞書を手に持っていた。会話などわからない事だらけだったので、とにかく辞書で調べていた。これが、すごくおもしろかつたし、実際に韓国に行ったからできたことだと思う。毎日、釜山を観光したり、おいしい食べ物を食べたりと幸せであった。この研修で感じたことは、何事も挑戦してみることが大切だということだ。悩んで行動しないより、勇気をだして行動することで、私自身の成長にもなったし、両親や友達の大切さを再確認することができた。すごく濃い内容の2週間だったので、あっという間だったけれど本当に充実した2週間を送ることができ最高の思い出になった。

## サークル紹介 美術部



私たち美術部は現在、4年生3名、3年生12名、2年生10名、1年生7名の計32名で活動している。活動は個人活動が中心で、内容は絵画(油絵・水彩画)やイラスト、粘土を使った造形、また他サークルの部紙や看板のデザインなども手がけている。サークル全体の主な活動としては、毎年リバーウォーク北九州にて、北九州市周辺の各大学と合同で開催する「北九州・下関大学連盟展」に出展している。その他、学内での定期的な作品展や大学祭用の大看板の制作も行っている。

この度、JR西日本が今年の7月から始めた「おいでませ山口アステーションキャンペーン」に合わせ、新下関駅ホームの壁画の制作を依頼され、本学、梅光学院、東亜の市内3大学でそれぞれ担当し、約2ヶ月かけてホームに設置してある6枚の壁画のうち2枚を仕上げた。

これからも芸術活動を通じて地域に貢献していきたいと思っている。

## 英語弁論大会開催

2008年6月28日にE.S.Sサークルは、今年で39回目となる下関市立大学英語弁論大会を開催し、予選を通過した10大学12名の大学生が参加した。

大会では、参加者が事前に考えてきた Prepared Speech と、その場で与えられるテーマに沿った Extemporaneous Speech の二つが、内容や発音などの観点から審査した総合得点で競われた。

今年は、健康問題や環境問題のスピーチが目立ち、どの参加者も気持ちを込めたスピーチで会場に集まった人々を魅了した。審査の結果、“Don't Shut Your Eyes to Tobacco Devils” を発表した東京大学の田島大基さんがどちらの部においても優れた演説をし、優勝した。

英語弁論大会は、来年で40年目を迎える。私たちは、この大会を開催することを通して、今後もより多くの人に英語の楽しさを感じてもらいたいと考えている。

## インターンシップ体験記(北九州勤労青少年文化センター)

経済学科4年 北岡夕季

私が今回インターンシップに応募した動機は、今後の就職活動にあたり、自分の力が社会にどれほど通用するかを見極めたかったからだ。そこで私は、1. 事務と呼ばれる職種は具体的にどのような仕事をするのかを知ること、2. 基本的なビジネスマナーを身につけること、の二点の目標を掲げ活動に参加した。

研修内容は、主に窓口受付業務であり、窓口でのお客様の対応に対しても、その都度表情を変えたり、事務所から外に出て、お客様と同じ目線に立って対応したりとお客様一人一人にあったコミュニケーション方法を学んだ。特に私は、お客様が常に喜んでくれることを第一に考え、接することを心がけて行った。また精神面では、自信を持つことが大切だと痛感し、そのためには自分をよく理解しておかなければならないということがわかった。

この経験をもとに、まずは、大まかな人生設計をたて、それに近づけるためには、どのような職種についてどう過ごしていくべきかを就職活動をするにあたって私は考えた。そして今、就職活動を終えて、私が希望する金融業界から内定をもらった。私にとってのインターンシップは、期間は短かったものの、就職活動をサポートしてくれる実践的訓練のような、とても内容の濃い良い機会だった。

## 就職活動を振り返って

国際商学科4年 正本大貴

私が自分の就職活動を始めようとした第一のきっかけは、三年生の夏休みにインターンシップを経験したことで、「働く」ということをより身近に感じ、自分の将来を意識するようになったことである。

学園祭が終わった11月上旬、それまではただパソコンに向かって企業研究をしていた日々から危機感を感じ実際に説明会、セミナーなどに行く機会を増やした。

私の就職活動は、志望業種および志望企業先まで順位づけをし、スケジュールを管理して行った。しかし、それだけでは

企業というのはあまりに少なくなってしまう。さまざまな業種に目を向け興味がなくても説明会に足を運び、行った説明会では多かれ少なかれ必ず自分にとってプラスになることを得て帰ることを日々の目標にした。それによって、自分が働く上で何を大切にしているのか考えることができたと思う。

一番大変だったのは、履歴書の作成である。夏休みから自己分析をし、専門演習の教授、キャリアセンターの方々などのアドバイスを何回も受けながら自分にとって最高の履歴書ができるまで決して妥協せずに続けた。専門演習のことからサークルのこと、企業の人が一番に見る履歴書に自分のすべてをぶつけるつもりで書いた。妥協しないからこそ、面接時に何を聞かれても素直に答えることができたと思う。

もちろん、他の人の話やインターネットなど見てみると、不安になり眠れない日もあった。そんな時に私が一番大切にしたのは「家族」の存在である。自分の事を誰よりも理解し、真剣に相談に乗ってくれる家族の大切さを今まで以上に感じた。

就職活動を終えて、これからの皆さんへのアドバイスを言うとしたら、大学生活を思いっきり楽しんで下さいと言いたい。多くの友人と出会い、多くの知識を学び、世の中を広く知ることによって自分という存在をより素直に受け止められるのではないだろうか。そして、他人と比較なんてしないで自分の力を信じ続ける事が就職活動の必勝法だと思う。

## 第25回市民大学テーマ講座開催

本学では、平成19年度から3か年にわたり、「下関ブランドの創造—下関を知り、下関をつくる」という統一テーマのもとでテーマ講座に取り組んでいる。第2年度にあたる今年は、「下関のブランド戦略、これでいいのかわか」というサブ・テーマを掲げ、11月29日(土) 13:00からシーモールパレスダイアモンドの間で開催された。

【構成】(敬称略)

第I部 13:00～14:00

問題提起I 「今、下関に求められているブランド戦略は何か?

～一次産品からの接近～」濱田英嗣(下関市立大学教授)

問題提起II 「ブランドとは何か。～引き算で現れる地域の真価」徳毛伸自(財団法人下関21世紀協会常任理事)

特別講演「京都とブランド」辻幸恵(追手門学院大学教授)

第II部 14:50～15:50

パネル討論「下関のブランド戦略、これでいいのかわか」

[パネリスト] 徳毛伸自、濱田英嗣、辻 幸恵、波多野実(下関市総合政策部長)、福田 裕(水産大学校教授)

[司会] 道盛誠一(下関市立大学附属地域共創センター長)

なお、今回のテーマ講座は、フク産業研究会を兼ねて開催されたため、県内外からフク産業研究会会員の参加もあった。



## 齋藤節夫氏、丹下栄氏に名誉教授の称号授与

本年3月で本学を退職された齋藤節夫氏と丹下栄氏に名誉教授の称号を授与することになり、10月16日(木)、教授会に先立って両氏への授与式が行われた。齋藤氏は、着任以来24年間にわたって中国経済論や演習等の担当教員として教育に尽力されたほか、教務部長、就職委員長などの要職を務められた。丹下氏は着任以来23年間にわたって世界経済史・西洋史等の担当教員として教育に尽力されたほか、学内行政の面でも教務部長、学生部長、二度の入試委員長など要職を歴任された。齋藤氏は定年退職、丹下氏は熊本大学への転出に伴う退職と事情は異なるが、両氏とも20年以上にわたって本学の教育や行政を支えてこられた。授与式での両氏の挨拶はこの間の大学の歴史にも触れて、懐旧にあふれたものであった。

### ■春季卒業式

9月30日(火)、A講義棟121番教室において、平成20年度春学期卒業式が行われた。卒業するのは、経済学科9名、国際商学科10名の計19名。このうち10名が出席した。この時期の卒業となった事情はそれぞれ異なるが、学長の励ましの声に送られて本学を巣立っていった。

### 市民向け公開講座のお知らせ

地域に開かれた大学として、市民向けの公開講座を開講している。  
(会場はいずれも下関市立大学)

#### ●初級中国語会話 —中国の文化と現代生活—

日時 11/4～12/13(全10回)

土曜日 13:30～14:45

講師 劉 鳳芹(下関市立大学特任教員)

#### ●中級中国語会話 —中国の文化と現代生活—

日時 10/18～12/13(全12回)

土曜日 15:00～16:15

講師 劉 鳳芹(下関市立大学特任教員)

#### ●企業提供講座 —人生80年時代の経済設計—

日時 10/10～12/12(全6回)

金曜日 18:30～20:00

講師 学外講師(証券会社社員)

#### ●新教養講座

##### 1. 世界的金融危機をどうとらえるか

日時 2009年2月7日・8日(全2回)

土・日とも 10:30～12:00

講師 西戸隆義(下関市立大学准教授)

##### 2. 中国語の学び方

一日中異文化コミュニケーションの観点から—

日時 2009年2月1日・8日(全2回)

日曜日 10:30～12:00

講師 浅野雅樹(下関市立大学講師)

##### 3. 韓国における企業論理問題

—歴史的背景と現状—

日時 2009年2月7日・14日(全2回)

土曜日 10:30～12:00

講師 中川圭輔(下関市立大学講師)

#### 4. 役に立つリーダーシップ

—小集団のマネジメントとモチベーション—

日時 2009年2月17日・18日(全2回)

火・水曜日 19:30～20:30

講師 川野祐二(下関市立大学准教授)

※会場:しものせき市民活動センター

【お問合せ】下関市立大学附属地域共創センター

TEL 083-254-8613 FAX 083-253-5091

Email: chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp

### ■専用マイクロバス導入



本学の教育研究活動、社会貢献・地域貢献活動、課外活動等への使用を目的として導入された専用マイクロバス(定員29名)が7月9日より運用を開始した。白色の車体に、本学のスクールカラーであるコバルトブルーマリンでシンボルマークを施したこのバスは、現代GPの学外活動やオープンキャンパス、学生のサークル活動等での活躍が期待されている。

### ■行事記録(2008年4月～11月)

- 4月 8日(火) 入学式
- 4月14日(月) 春学期授業開始
- 6月18日(水) 第1回就職ガイダンス
- 7月 7日(月) 「世界の厨房から」開催
- 7月12日(土) ミニオープンキャンパス
- 7月27日(日) オープンキャンパス
- 7月30日(水) 春学期定期試験(～8/12)
- 8月 3日(日) オープンキャンパス
- 8月11日(月) クリーンキャンパスデー
- 8月12日(火) 第2回就職ガイダンス
- 8月22日(金) 山口県大学図書館協議会総会(梅光学院大学)
- 9月13日(土) 大学院入試
- 9月30日(火) 春学期卒業式
- 10月 1日(水) 秋学期授業開始
- 10月 9日(木) ふく資料室オープニング式典
- 10月11日(土) 保護者向け入試説明会
- 11月 1日(土) 大学祭(～11/3)
- 11月 2日(日) 留学生日本語弁論大会
- 11月22日(土) 推薦・特別(帰国子女、社会人)・編入学選抜

2011年4月

公共マネジメント学科開設

—問題解決のできる高度マネジメント能力の養成—